

大阪市立阿倍野小学校 第1回ICT公開授業

研究主題

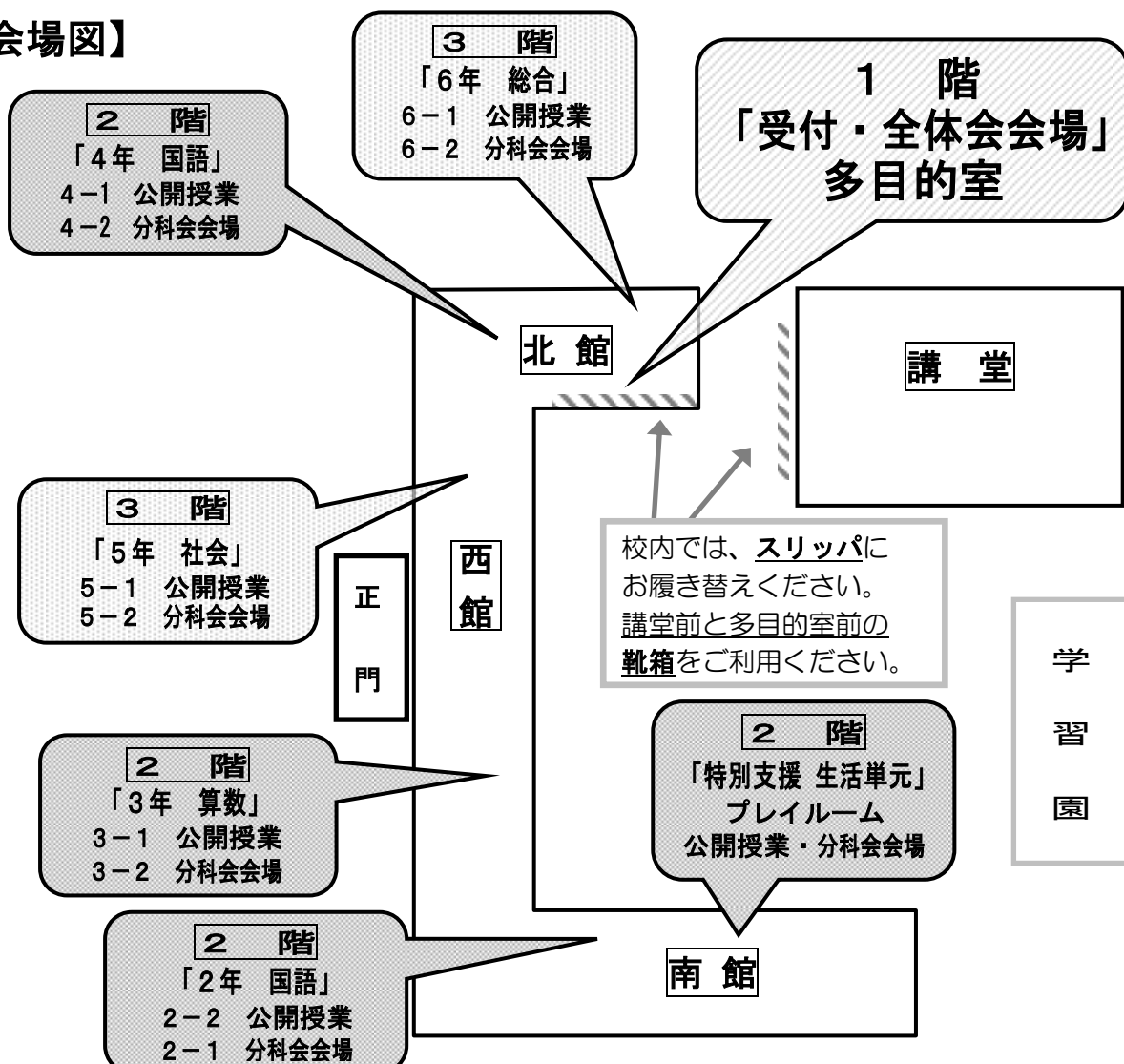
ともに学び合い、学びを深める子どもの育成

ーICTを活用して、コミュニケーション能力の向上を目指すー

【時 程】

1:20	1:40	2:00	2:45	3:00	4:00	4:10	5:00
受 付	全体会Ⅰ (多目的室)	ICT 公開授業 (各教室)	移動休憩	分科会 (各教室)	移動休憩	全体会Ⅱ (多目的室)	
	公開授業の ポイント	使用機器 電子黒板 iPad 等		・本日のICT活用 のポイント説明 ・質疑応答 ・実技研修		各分科会報告 指導助言	

【会場図】



参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 子どもの顔は、なるべく撮らないようにしてください。
 - フラッシュは使用しないでください。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用してください。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。
また、「Bluetooth」「Wi-Fi」機能をオフにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

ようこそ 阿倍野小学校 ICT 公開授業へ

紅葉の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、本校では、平成 24 年 12 月からの大阪市教育局「学校教育 ICT 活用事業」モデル校の指定に引き続き、平成 27 年 12 月から三年間の大阪市教育局「学校教育 ICT 活用事業」先進的実践研究校の指定を受け、ICT 活用による教育的効果の検証に取り組んでまいります。この度、平成 27 年度第 1 回（通算 7 回）の公開授業を実施いたします。何かとご多用とは存じますが、ぜひ多くの皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。



大阪市立阿倍野小学校長 民辻 善昭

【全体会Ⅰ】(1:40～ 於：講堂) オリエンテーション。公開授業のポイントを紹介します。

【公開授業】(2:00～2:45)

主な活用機器 **電子黒板** **iPad**

場 所	教科等	単元・内容	授 業 者	I C T 活用の場面	使用アプリ
2 年 2 組	国 語	どうぶつのひみつをさがろう 「ビーバーの大工事」	佐野ちなみ	□導入 ■展開 ■まとめ	ロイロノート
3 年 1 組	算 数	三角形を調べよう	生田 一恵 黄本 幸	■導入 ■展開 □まとめ	AC Board
4 年 1 組	国 語	感想を伝え合おう 「ごんぎつね」	坂井 敦子	■導入 ■展開 ■まとめ	MetaMoji Note
5 年 1 組	社 会	工業の今と未来	木村 拓也	■導入 ■展開 ■まとめ	ロイロノート SCHOOL
6 年 1 組	総 合	めざせ 人がつながる町 阿倍野	別所 英文	■導入 ■展開 ■まとめ	ロイロノート SCHOOL
プレイルーム	特別支援 生活単元	がんばりを記録に残そう	吉川 達也	■導入 ■展開 ■まとめ	Keynote

※5年社会と6年総合の公開授業は、「がんばる先生支援」今日的課題研究の公開授業と兼ねて実施します。

【分 科 会】(3:00 ～4:00)

分 科 会	会 場	内 容		
2 年国語	2 年 1 組	・ 本日の I C T 活用 のポイント説明 ・ 質疑応答	実 技 研 修	ロイロノート
3 年算数	3 年 2 組			AC Board
4 年国語	4 年 2 組			MetaMoji Note
5 年社会	5 年 2 組			ロイロノート SCHOOL
6 年総合	6 年 2 組			ロイロノート SCHOOL
特別支援	プレイルーム			Keynote

※5年社会と6年総合の公開授業は、「がんばる先生支援」今日的課題研究の発表と兼ねて実施します。

【全体会Ⅱ】(4:10～5:00 於：講堂)

分科会報告 本校教員

指導助言 大阪教育大学教授 木原 俊行 先生

研究の概要

1. 今年度の研究主題

研究主題
「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」
ーICTを活用して、コミュニケーション能力の向上を目指すー

2. 主題設定と研究の視点について

本校では、平成24年12月から三年間の大阪市教育委員会「学校教育ICT活用事業」モデル校に引き続き、平成27年12月から三年間は、大阪市教育委員会「学校教育ICT活用事業」先進的実践研究校の指定を受けました。

大阪市の方策として、「ICTを活用して協働学習や個別学習などの充実をめざす」ことがあげられます。ICTは、その機器の使用を目的とするのではなく、その機器の使用を基に、協働学習や個別学習が行えることを目的としています。私たちは、日々の学習の中に、あたりまえのツールとしてICTを活用していくことを目的としています。しかし、ICTありきで学習を展開していくではありません。学習が問題解決を基に行われている必要があり、学習には協働学習を取り入れるべきであるという声に耳を傾けながら、これらの学習を展開するのに有効なツールとして、ICTを活用することを日々研究しています。OECDのキーコンピテンシーには以下の3つの能力が挙げられています。

- ①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（個人と社会との相互関係）
- ②多様な社会グループにおける人間関係形成能力（自己と他者との相互関係）
- ③自律的に行動する能力（個人の自律性と主体性）

本校では、校内アンケートの結果や、全国学力・学習状況調査の結果から、①②の能力に注目し、子どものコミュニケーション能力を育成することで、協働的に学び、学びを創造できる子どもの育成を目指して、研究主題を「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」、副題を「ICTを活用して、コミュニケーション能力の向上を目指す」としました。

上述の研究主題を受けて、以下の5つの研究の視点を設定しています。

＜研究の視点＞

- **日々の学習の中で問題解決能力を高める。**
 - ・問題解決を取り入れながら、どの場面でICTを活用し、どのような効果をねらうのか。
- **協働的な学びを展開する。**
 - ・どのようにICTを活用すれば情報を共有したり、情報を発信したりできるのか。
- **情報活用能力を育成する。**
 - ・情報モラルを含めた、広い意味での情報活用能力をどのようにすれば高めることができるのか。
- **授業以外でICTを活用する。**
 - ・どんな場面(朝、家庭学習、校外活動…)で、どのように活用できるか。
- **教員のICT研修を行う。**
 - ・いつ(定期的、長期休業時、必要時…)、どこで(校内、他校…)、だれが、どのように進めていくか。

3. 研究の組織について

研究部

【企画運営・公開授業の企画推進・授業以外のICT活用の推進・情報モラル教育の推進・機器管理・研修】

研究推進委員会（研究部員・学年主任・担任外・生活指導部長・人権教育部長）

研究全体会—低学年部会・中学年部会・高学年部会・特別支援学級部会

一般研修 ICT研修

4. 研究の内容について

＜ICT を活用した授業づくりの基本的な考え方＞

○ 問題解決における ICT の活用

子どもの主体的な学びを実現するために、単元構成や授業の学習過程において、学習に問題解決を取り入れることを基本とする。導入：「問題の設定」＝展開：「問題の追究」＝まとめ：「結論の導出」の3段階を基本的な流れとする。また、問題解決において、「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、そのために有効な ICT の活用方法を模索する。

○ 協働的な学びにおける ICT の活用

子どもが協働的に学びを展開するためには、思考の可視化や伝達の効率化等が考えられる。個々の考えが可視化できれば、個々の考えの比較が容易にできる。また、自分の考えを容易に表現できたりすれば、伝達が効率化できる。このように、子どもが協働で学びを展開する際のツールとして有効な ICT の活用方法を模索する。

【問題解決的な学習の基本的流れ】

導入

①問題を設定する場面

- ・ 問題を設定する
- ・ 問題に対して予想する
- ・ 予想を確かめる方法を考える

展開

②学習問題を追究～解決する場面

- ・ 必要な資料を収集し、分析する
- ・ 実験や観察、調査などに取り組む
- ・ 明らかになったことを整理する

まとめ

③結論の導出・吟味し、活用する場面

- ・ 個々が解決したことを発表し合う
- ・ 結果から結論をまとめる
- ・ さらなる問題を明確にする
- ・ 生活化を図ったり、別の事象にあてはめたりする

【ICTを活用する主なねらい(例)】

○疑問や驚きなどから問題を内発させることができる

○問題を追究しようとする関心・意欲を高めることができる

○問題に主体的・意欲的に取り組むことができる

○思考の可視化ができる

○追究活動を効率的に進めることができる

○学習内容をより深く定着させることができる

○表現力を高めることができる

○プレゼンテーション能力を養うことができる

[illegible]

第2学年 国語科 学習指導案

授業者 佐野 ちなみ

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 □一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	□導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノート ○ 写真ファイル
ICT活用のポイント	○ クイズの問題と答えを電子黒板に提示し、学級全体で共有するために、クイズの問題と答えをロイロノートで作成する。 ○ クイズの問題と答えをロイロノートで作成し、本の題名や目次、図や写真などをスライドに活かすことで、より分かりやすいプレゼンテーションが行えるようにする。

- 1 学年・組 第2学年2組 計32名
- 2 場 所 2年2組教室
- 3 単 元 名 どうぶつのひみつをみんなでさぐろう
- 4 目 標

○ だいたいの言葉や文に気をつけながら、教材文や本を読み、読んで調べたことをまとめることができる。

○ 読んで調べたことを「どうぶつのひみつクイズ」の問題と答えの形で表現することができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
ビーバーやほかの動物に関心を持ち、進んで教材文を読み、図鑑や読み物などの本を選んで読もうとしている。	クイズを作るために、動物について書かれた本や文章を、題名や目次、図や写真などに着目して、読んで読んでいる。	前後の語句や文のつながりに気をつけて、「どうぶつのひみつクイズ」の問題と答えを書いている。	「は」「へ」「を」の助詞を正しく使って「どうぶつのひみつクイズ」を書いている。また、主語と述語の関係に注意して、文や文章を読んでいる。

6 指導計画（全 14時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	・ビーバーについて知っていることを話し合う。 ・今後の学習計画を立てる。	・ビーバーの写真を電子黒板で提示することで、どのような動物かが分かるようにする。 ・今後の学習計画を立てるために、「どうぶつのひみつクイズ」の見本を提示する。
2	2	・「ビーバーの大工事」の1～9段落（木を切り倒すビーバー）を読み取る。	・デジタル教科書の写真を電子黒板で提示することで、ビーバーの様子を分かりやすくする。 ・デジタル教科書の文章を電子黒板で提示し、それにマーキングすることで、クイズの答えのまとめ方を共有する。

	3	木を切り倒すビーバーの内容からクイズを作る。	ロイロノートを活用することで、クイズの問題から答えまでの過程を可視化する。
	4	「ビーバーの大工事」の10～15段落（ダムを作るビーバー）を読み取る。	- デジタル教科書の写真を電子黒板で提示することで、ビーバーの様子を分かりやすくする。 - デジタル教科書の文章を電子黒板で提示し、それにマーキングすることで、クイズの答えのまとめ方を共有する。
	5	ダムを作るビーバーの内容からクイズを作る。	ロイロノートを活用することで、クイズの問題から答えまでの過程を可視化する。
	6	「ビーバーの大工事」の16～20段落（すを作るビーバー）を読み取る。	- デジタル教科書の写真を電子黒板で提示することで、ビーバーの様子を分かりやすくする。 - デジタル教科書の文章を電子黒板で提示し、それにマーキングすることで、クイズの答えのまとめ方を共有する。
	7	巣を作るビーバーの内容からクイズを作る。	ロイロノートを活用することで、クイズの問題から答えまでの過程を可視化する。
	8	「ビーバーの大工事」を読んで、分かったことを確かめる。	
3	9	1組に出題する「どうぶつのひみつクイズ」を作るために、どんな動物について調べたいか考え、本を選ぶ。	「どうぶつのひみつクイズ」の見本を提示する。
	10	本の中から知りたいことに関係のある大事なところを探す。	
	11	- 調べたことをもとにして「どうぶつのひみつクイズ」の問題と答えを書く。 - ペアで、「どうぶつのひみつクイズ」のじゅんびをする。	次時でロイロノートを活用して問題と答えを作るために、どの本を使い、どの部分をもとにクイズを作成したのか、タブレットの写真アプリを活用し整理する。
	12 (本時)	- ペアで、ロイロノートを活用し、問題と調べた順序、答えを作る。 - できたスライドの一部を紹介する。 - グループでできたスライドの確認をする。	ワークシートの資料をもとに、ロイロノートを活用し整理することで、クイズの問題、調べた順序、答えを分かりやすく示す。
	13	ロイロノートで作成した問題と答えを実際にクラス全体で確認し、スライドの修正を行う。	互いに問題を解きながら、分かりにくいところを修正することで、1組に出題するときにより分かりやすい問題と答えを作成する。
	14	タブレットと本をセットにして教室にならべ、「どうぶつのひみつクイズ大会」をし、ペアで回りながら様々な問題に答える。（1組が作った問題に答えたり、1組に問題を出題したりする。）	ロイロノートで作成した問題と答えを活用し、動物について書かれた、本のどこに答えの根拠があるのかを見つけ、だいじなところを探しながら読む力を高める。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 読んで調べたことを「どうぶつのひみつクイズ」の問題と答えの形で表現することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 前時までの振り返りをし、 本時のめあてをつかむ。			【関】 ・「どうぶつのひみつクイズ」を作ることに興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。(態度・発言)
	○ 本時の活動内容を確認する。	・どうぶつのひみつクイズの見本を提示し、活動内容の見通しを持つ。	電子黒板 iPad (指) ・ロイロノート	
展 開	○ 前時で書いた問題と答えをもとに、ロイロノートで整理しながら、問題と答えを作る。 ・ペアで協力して行い、マーキングの仕方を互いにアドバイスしながら作る。	・ロイロノートで問題と答えを作ることで、調べた順序を示す。	iPad (児) ・ロイロノート	【読】 ・問題に関係する言葉や文を見つけながら、本を読みとっている。(発言・ロイロノート)
	○ できたスライドの一部を紹介する。	・学級全体で共有するために、クイズの問題と答えを電子黒板に提示する。	電子黒板 iPad (指・児) ・ロイロノート	
	○ グループで、本と照らし合わせて、ロイロノートで作った問題と答えを確認する		iPad (児) ・ロイロノート	
ま と め	○ 次時の学習内容を知る。			

(3) 板書計画

電子黒板

	投影内容
導入	○子どもが活用したすべての本を 写真で提示
展開	○ロイロノートで作った問題と答 えの見本 ○ペアで作ったスライド
まとめ	

④ どうぶつのひみつクイズ大会
のじゅんぴをしよう。

どうぶつのひみつをわくわく

〈クイズの作り方〉

- 1 本のひょうじ
- 2 もんだい
- 3 「こたえまじょう」のがぞう
- 4 もくじ
- 5 見出し
- 6 文しょう
- 7 文しょう (ヒント)
- 8 「こたえ」のがぞう
- 9 こたえ

- 参考：・無藤隆／総監督、『どうぶつ - ほにゅうるい／はちゅうるい - 』、フレーベル館、2004 年
- ・小宮輝之／監修、『どうぶつ 新版（ふしぎ・びっくり!?こども図鑑7）』、学研、2005 年
 - ・今泉忠明・鳥羽通久・小宮輝之 著、『動物のくらし - ほ乳類・鳥類・両生爬虫類 - 』、学研、2006 年
 - ・小宮輝之／監修、『動物（ジュニア学研の図鑑1）』、学研、2007 年
 - ・今泉忠明／監修、『動物：増補改訂（ニューワイド学研の図鑑）』、学研マーケティング、2010 年
 - ・川田伸一郎／監修、『動物（ポプラディア大図鑑WONDA2）』、ポプラ社、2012 年
 - ・土居利光／監訳、『はじめての生きもの図鑑 - 昆虫 魚 鳥 ほにゅう類 はちゅう類 両生類 - 』、宝島社、2014 年
 - ・三浦慎悟／ほか監修・指導、『動物：新版（小学館の図鑑NEO1）』、小学館、2014 年
 - ・成島悦雄 著、『動物のちえ1 食べるちえ』、偕成社、2014 年
 - ・成島悦雄 著、『動物のちえ2 身を守るちえ』、偕成社、2014 年
 - ・成島悦雄 著、『動物のちえ3 育てるちえ』、偕成社、2014 年
 - ・成島悦雄 著、『動物のちえ4 眠るちえ』、偕成社、2014 年
 - ・成島悦雄 著、『動物のちえ5 とともに生きるちえ』、偕成社、2014 年
 - ・山本省三 著、『パンダの手には、かくされたひみつがあった！（動物ふしぎ発見）』、くもん出版、2007 年
 - ・山本省三 著、『アライグマの口のなぞが、ついにとけた！（動物ふしぎ発見）』、くもん出版、2009 年
 - ・山本省三 著、『ソウの長い鼻には、おどろきのわけがある！（動物ふしぎ発見）』、くもん出版、2008 年
 - ・山本省三 著、『すごい目玉をもったアザラシがいる！（動物ふしぎ発見）』、くもん出版、2008 年
 - ・山本省三 著、『ペンギンの体に、飛ぶしくみを見つけた！（動物ふしぎ発見）』、くもん出版、2007 年
 - ・今泉忠明／監修、『どうぶつずかん（幼稚園百科 kintaro）』、講談社、1992 年
 - ・今泉忠明／監修、『なぜなぜベスト図鑑 - Q&A - 3 どうぶつ・とり1』、学研ネクスト、2013 年
 - ・今泉忠明／監修、『なぜなぜベスト図鑑 - Q&A - 4 どうぶつ・とり2』、学研ネクスト、2013 年

第3学年 算数科 学習指導案

授業者 生田 一恵 黄本 幸

《本時のICTの活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 ■個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) ■その他(書画カメラ)
活用コンテンツ等	○ AC Board ○ MetaMoji Note
ICT活用のポイント	○ ストローで作成した三角形を写真に取り込み、AC Boardの写真カードの受け渡し機能を活用して、友だちと辺の長さに着目しながら比較・交流し、三角形の仲間分けをする。 ○ 具体物の三角形を写真カードにすることで保存ができ、作業がしやすくなる。 ○ マーキングやピンチアウトができて発表しやすいので、AC Boardで分類したボードをMetaMoji Noteに書き出す。

1 学年・組 第3学年1組 計30名

2 場 所 3年1組教室

3 単 元 名 三角形を調べよう

4 目 標

- 辺の長さに着目して三角形の特徴をとらえたり、角の大きさに着目して三角形の性質を見出したりして、表現することができる。
- 定規とコンパスを用いて、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。
- 角について知り、二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解する。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識・理解
二等辺三角形や正三角形などの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。	二等辺三角形、正三角形などの図形についての観察や構成などを通して、日常の事象について見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりしている。	二等辺三角形、正三角形などの図形を構成するなどの技能を身に付けている。	二等辺三角形。正三角形などの図形についての感覚を豊かにするとともに、それらの意味や性質について理解している。 一つの頂点から出る2本の辺が作る形を角ということを理解している。

6 指導計画(全 11時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	・身の回りにあるいろいろな形の三角形を見つける。	・校内にある三角形を見つけ、撮影することで、友だちと共有することができる。

	2 (本時)	・ストローでいろいろな三角形を作成し、できた三角形を辺の長さに着目して分類する。 ・用語「二等辺三角形」「正三角形」を知り、弁別する。	・AC Board を使用することにより、友だちとの比較・分類がしやすい。 ・MetaMoji Note に書き出すことで、マーキングやピンチアウトができて、発表しやすい。
	3	・二等辺三角形のかき方を考える。 ・定規とコンパスを用いて、二等辺三角形を作図する。 ・二等辺三角形の作図練習をする。	・二等辺三角形の作図の仕方をデジタル教科書アニメーションで提示することで、手順をわかりやすくできる。 ・子どもが作図するところを書画カメラで提示することで、二等辺三角形のかき方を共有できる。
	4	・正三角形のかき方を考える。 ・定規とコンパスを用いて、正三角形を作図する。 ・正三角形の作図練習をする。	・正三角形の作図の仕方をデジタル教科書アニメーションで提示することで、手順をわかりやすくできる。 ・子どもが作図するところを書画カメラで提示することで、正三角形のかき方を共有できる。
	5	・円の中心と円周上の2点を結んで二等辺三角形や正三角形をかく。	・Geoboard を活用して作図することで、簡単にいろいろな二等辺三角形や正三角形を作り出すことができる。
2	6	・三角定規で、直角のかどや一番とがっているかどを調べる。 ・用語「角」および角の大きさの意味を知る。	・三角定規のかどを比べる操作活動を書画カメラで提示することで、角について理解することができる。
	7	・三角定規の角の大きさを調べる。 ・角の大きさは辺の長さに関係ないことをまとめる。	・デジタル教科書のシミュレーションを提示することにより、角の大きさを理解することができる。
	8	・二等辺三角形や正三角形の3つの角について大きさを比べる。 ・二等辺三角形や正三角形の角の性質をまとめる。	・デジタル教科書のシミュレーションを提示することにより、二等辺三角形や正三角形の3つの角の大きさについて理解することができる。
	9 10	・二等辺三角形や正三角形を並べて敷き詰める。 ・身の回りから、二等辺三角形や正三角形の形をしているものを探す。	・校内や家庭にある二等辺三角形や正三角形を見つけ、撮影することで、友だちと共有することができ、さらにそれらがどのようなところで活用されているか考えることができる。
3	11	・練習問題に取り組む。	

7 本時の学習

(1) 目 標

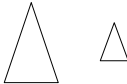
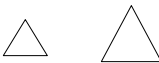
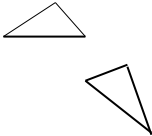
- 辺の長さに着目して三角形を分類することができる。
- 二等辺三角形や正三角形の意味について理解する。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 前時の学習を振り返る。 ・前時を振り返り、本時の学習問題をつかむ。	・前時に見つけた三角形を電子黒板に提示することで、振り返りをする。	電子黒板 iPad(指)	【関】 ・前時を振り返りながら、本時の学習問題に関心をもつ。(行動観察)

展開	三角形を作って、なかま分けしよう。			【関】 - 進んで三角形を作ろうとしている。 (行動観察) 【数】 - 辺の長さに着目して、三角形の分類の仕方を考えている。 (行動観察・発言)
	○ ストローで三角形を作る。 - 赤(12 cm) 青(10 cm) 黄(8 cm) 橙(6 cm) の4種類のストローから3本を選んで三角形を作る。 - 作った三角形を撮影し、カードを作る。 ○ 3つの辺の長さに着目して、三角形を分類する。 2人でiPadをつなぎ、カードを分類する。 ○ 分類したボード全体をMetaMoji Noteに書き出し、マーキングする。 ○ 分類した三角形を発表し、話し合う。	- 写真カードにすることで保存ができ、作業がしやすくなる。 - AC Board を用いることにより、iPad上でカードを送ったり、受けたりすることができ、分類しやすい。 - MetaMoji Noteに書き出すことで、マーキングやピンチアウトができて、発表しやすい。 - 分類した三角形を電子黒板に提示することで、共有できる。	iPad (児、指) AC Board iPad (児) AC Board iPad (児) MetaMoji Note 電子黒板 iPad (児)	
まとめ	○ 二等辺三角形、正三角形の定義を知る。 ○ 練習問題をする。	- 子どもが作り出した二等辺三角形や正三角形を提示することにより、理解が深まる。 - プリントを提示し、答え合わせをする。	電子黒板 書画カメラ	【知】 二等辺三角形や正三角形の意味を理解している。 (発言・プリント)

(3) 板書計画

電子黒板		三角形を作って、なかま分けしよう。		
	投影内容	3つの辺の長さに目をつけて		
導入	・校内で見られる三角形の写真	2本の辺の長さが同じ	辺の長さがみんな同じ	辺の長さがみんなちがう
展開	・ストローで作った三角形の写真 ・三角形を仲間分けしたボード	二等辺三角形	正三角形	
まとめ	・三角形を仲間分けしたボード			

[illegible]

第4学年 国語科 学習指導案

授業者 坂井 敦子

《本時の ICT の活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 ■個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(子ども) ■自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する ■学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ デジタル教科書(東書 国語4年下) ○ MetaMoji Note ○ SKYMENU
ICT 活用のポイント	○ デジタル教科書で教材文やさし絵を提示することで、根拠となる叙述を明確にし、読み取りを助ける。 ○ MetaMoji Note のワークシートを使用し、SKYMENUに保存することで、考えを共有する。

1 学年・組 第4学年1組 計25名

2 場 所 4年1組教室

3 単 元 名 感想を伝え合おう 「ごんぎつね」

4 目 標

- 物語を読んで、中心となる人物とほかの人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力		書く能力
物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。	中心となる人物とほかの人物との関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化を想像して読んでいる。	物語を読んで感じたことや思ったことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。	中心となる人物の気持ちの変化について、本文中の叙述をもとに感想を書いている。

6 指導計画(全12時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	- 場面ごとに読み取ったことを活かして、学習の終わりに感想を伝え合うことを知る。 - 全文を通読し、言葉調べをする。 - 初めの感想を書く。	- デジタル教科書を使って、教材文やさし絵を提示することで、学習しているところを明確にする。 「ごんぎつねものしり図鑑」(新美南吉記念館HP)を見ることで、昔の暮らしや分かりにくい言葉を理解する。 - 国語辞典に載っている分かりにくい言葉を写真撮影し、ロイロノートに保存することで、いつでも活用する。 - MetaMoji Note の「ごんぎつねブック」に感想を書き、SKYMENUに保存することで、共有する。

1	2	・場面ごとに個人の学習課題を考える。	・MetaMoj Note の「ごんぎつねブック」に個人の学習課題を書き、SKYMENUに保存することで、共有する。
	3	・個人の学習課題をもとに全体の学習課題を話し合う。	・電子黒板に個人の学習課題を提示することにより、全体で共有する。
2	4 5 9 (本時9)	・1～6場面を学習課題にしたがって、読み取る。	・MetaMoj Note の「ごんぎつねブック」に読み取ったこと・本文でそれが分かるところ・ごんと兵十の心の距離を書き、SKYMENUに保存することで、共有する。
3	10	・まとめの感想を書く。	・MetaMoj Note の「ごんぎつねブック」にまとめの感想を書き、SKYMENUに保存することで、共有する。
	11	・まとめの感想を伝え合う。	・まとめの感想を伝え合うときに、1～6場面それぞれのごんと兵十の心の距離も提示することで、二人の気持ちの変化を明確にする。
	12		

7 本時の学習

(1) 目標

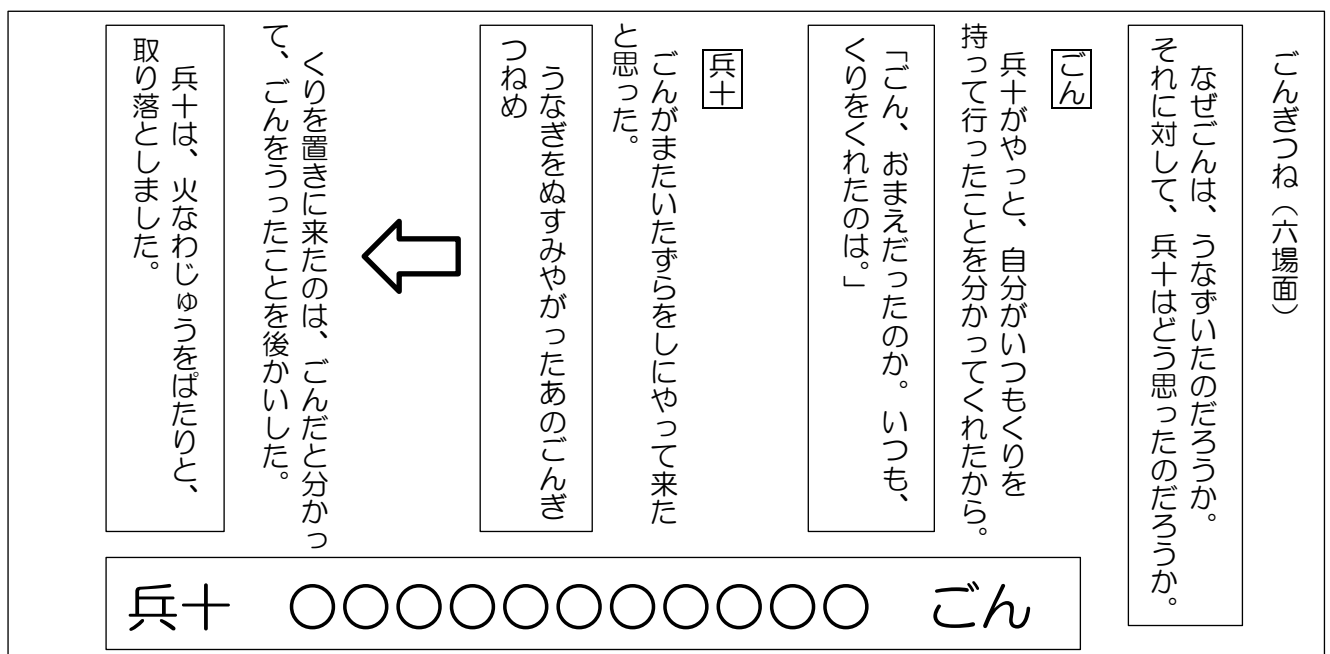
- ごんがうなずいたわけとそれに対して兵十が思ったことを読み取ることができる。

(2) 展開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導入	○ 前時（５場面）の学習を振り返る。 ・ごんが引き合わないなあと思った理由を想起する。	・前時の場面を電子黒板に提示することで、本時とのつながりを確認する。	電子黒板 ・前時の板書（写真）	【関】 ・前時の学習を振り返り、本時に活かそうとしている。 （発言）
	○ 学習課題をつかむ。	なぜごんは、うなずいたのだろうか。それに対して兵十はどう思ったのだろうか。		
	○ 学習場面（６場面）を音読する。		・音読の留意点	
展開	○ 「ごんぎつねブック」に自分の考えを書く。 ・ごんがうなずいた理由とそれに対して兵十が思ったことを読み取る。	・「本文でそれが分かるところ」「読み取ったこと」を記入することができる。	iPad（児） ・MetaMoji Note 電子黒板 ・記入の留意点	【書】 ・ごんと兵十の関わりをとらえ本文中の叙述をもとに自分の考えを書いている。 （MetaMoji Note）

展 開	○ グループで伝え合う。 司会者がリードして、それぞれが読み取ったことを交流する。	- 友達が記入したことをタブレットで見ながら話を聞くことにより、理解を深めることができる。 - 友達の意見で取り入れたいものをマーキングすることにより、読み取りを深めることができる。	iPad（児） - MetaMoji Note - SKYMENU 電子黒板 - 伝え合いの留意点	【読】 一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。（発言）
	○ 全体で話し合う。 - グループでの伝え合いも活かして、自分の意見を発表する。 「ごんと兵十の心の距離」も考え、理由もつけて発表する。	- デジタル教科書のさし絵を提示することにより、読み取りを助けることができる。 「ごんと兵十の心の距離」を提示することにより、二人の関係が大きく変化したことをとらえることができる。	iPad（児） - MetaMoji Note - SKYMENU 電子黒板 - デジタル教科書	【読】 二人の関係の変化を読み取ることができている。（発言）
ま と め	○ 学習した感想を発表する。 学習してわかったことや友達の意見から学んだことを発表する。 ○ 次時はまとめの感想を書くことを知る。	ごんがうたれて、倒れているさし絵を提示することにより、物語の余韻を味わわせることができる。	電子黒板 デジタル教科書	【関】 意欲を持って学習に取り組んでいる。（発言）

(3) 板書計画



電子黒板

	投 影 内 容		
導入	○前時の板書（写真）	○学習課題	○音読の留意点
展開	○記入の留意点	○伝え合いの留意点	○デジタル教科書
まとめ	○デジタル教科書		

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

第5学年 社会科 学習指導案

授業者 木村 拓也

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	□導入 ■展開 □まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えを比較・交流 ■学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノートスクール ○ マップ
ICT活用のポイント	○ マップで工業がさかんな都市の場所を確かめ、白地図に表すようにする。 ○ 調べたことを、タブレットを活用して、グループで共有し、話し合いながら協働的に学習を進めていくことで、コミュニケーション能力、協調性を高めるようにする。

1 学年・組 第5学年1組 計32名

2 場 所 5年1組教室

3 単元名 工業の今と未来

4 目 標

○ さかんな工業の種類や工業地域、大工場と中小工場それぞれの生産の様子など、日本の工業の特色を捉えることができる。

○ 工業生産に関する文章や写真からの情報、地図や統計などの資料を収集・選択し、さまざまな製品をつくり国民生活を支える工業生産の役割について、貿易・運輸のはたらきなどに関連させながら考えることができる。

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の技能 【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○ 生活がさまざまな種類の工業製品に支えられていることに気づき、日本の工業生産の特色について、興味をもって調べようとしている。	○ 海沿いや一部の内陸部で工業が盛んな理由について、土地の条件や交通網と関連づけて考え、表現している。 ○ 工業生産と人々の生活を関連づけて、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、表現している。	○ 大工場や中小工場の特色について、資料から読み取ったことをノートや教科書にまとめている。 ○ 高い技術を生かしてものづくりをする中小工場の工夫や努力について、必要な情報を資料から読み取り、ノートにまとめている。	○ 工業がさかんな地域の分布や生産の割合が大きい工業の種類、日本の工業生産を支える中小工場の優れたものづくりなど日本の工業の特色を捉えている。 ○ 工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

6 指導計画（全8時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	工業製品の仲間分けをしたり、日本の工業生産額の変化を読み取ったりして、日本の工業についてわかったことを話し合う。	- 身のまわりにある工業製品の写真を電子黒板で提示することで、工業製品について理解できるようにする。 - 日本の工業生産額の変化などの資料を電子黒板で提示し、その資料を読み取ることで、日本では工業にどのような特色があるかについて考えることができるようにする。
2	2 (本時)	工場が集まる場所について調べ、工場が集まる理由を考える。	ロイロノートスクールを活用することで、工場が集まる場所について調べたことなどをグループで共有できるようにする。
	3 4	工業のさかんな地域とそれぞれの地域の特色を地図や統計資料などから読み取り、日本の工業の特色について考える。	工業地帯や工業地域について調べたことをロイロノートスクールにまとめ、発表できるようにする。
3	5	大工場と中小工場の生産の特色について、写真や統計資料などから読み取り、大工場と中小工場のそれぞれの役割について考える。	大工場と中小工場の写真を電子黒板で提示し、比較することで生産の様子の違いについて捉えることができるようにする。
4	6	写真などの資料を通して、中小工場のものづくりの様子を調べ、中小工場の工夫や努力について話し合う。	中小工場の工夫や努力について調べたことをロイロノートスクールにまとめ、発表できるようにする。
5	7	心を豊かにする工業生産について、具体的な製品の例をもとに調べ、工業生産が人々の生活に果たす役割や意味について話し合い、これからの工業生産のあり方について考えをまとめる。	これからの工業生産のあり方について考えをロイロノートスクールにまとめ電子黒板に児童の考えを提示することで、クラス全体で共有できるようにする。
6	8	日本の工場数の減少をグラフから読み取り、日本の工業生産が抱える課題をこれまでの学習をもとに話し合い、これからの工業生産について考える。	日本の工場数の減少を表したグラフを電子黒板で提示することで、日本の工業生産が抱える課題について話し合う場をつくるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 工場が集まる場所について調べ、その理由について土地の条件や交通網と関連づけて考えることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 工業にはどのような種類があったか想起し、それらの工場がどのようなところにあるのか予想し話し合う。 ・海沿いにある ・内陸部にある			
工場はどのようなところに集まっているのだろう。				
展 開	〈エキスパート活動〉 ○ 工業ごとに分かれ、生産額の多い都市の表をもとに工業がさかんな都市の場所を調べる。 ・せんい工業 ・食料品工業 ・化学工業 ・金属鉱業 ・機械工業 など ○ 白地図に工業がさかんな都市の場所を記入する。 ○ 工業のさかんな地域が集まっているわけを考える。 ・港 ・空港 ・高速道路 ・鉄道 ・人口が多い都市 など 〈ジグソー活動〉 ○ エキスパート活動で話し合ったことを発表し、どのようなところに工業がさかんな地域が集まっているのか共通点をさがし、そのわけを考える。また、各工業で特徴的なところにも目を向けるようにする。 ・原料や製品の輸送に便利 ・高速道路を使った輸送に便利 ・大消費地に近い	【マップ担当】 ・マップを活用して、都市の名を検索することで、都市の場所をすぐに見つけることができる。 【白地図担当】 ・都市の場所をロイロノートスクール内の白地図にドットで示すことで、分かりやすく表せたり共有したりすることができる。 ・ロイロノートスクールを活用することで、調べたことなどをグループで共有できるようにする。 ・電子黒板で、提示することにより学級全体で共有できるようにする。	電子黒板 iPad（指・児） iPad（児） ・ロイロノートスクール ・マップ	【関】 ・どのようなところに工場が集まっているのかを興味をもって調べようとしている。（行動観察） 【思】 ・海沿いや一部の内陸部で工業がさかんな理由について、土地の条件や交通網と関連づけて考え、表現している。（ロイロノートスクール）

ま と め	○ 工業のさかんな地域とそれぞれの地域の特色や日本の工業の特色について調べていくことを伝え、次時につなげる。			
-------------	--	--	--	--

(3) 板書計画

工場はどのようなところに集まっているのだろう									
電子黒板 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="text-align: center;">投影内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入</td> <td>・ 工業の種類</td> </tr> <tr> <td>展開</td> <td>・ 白地図</td> </tr> <tr> <td>まとめ</td> <td>・ 子どもの考え</td> </tr> </tbody> </table>		投影内容	導入	・ 工業の種類	展開	・ 白地図	まとめ	・ 子どもの考え	④ 調 ・ 海沿いに集まっている ・ 太平洋側に集まっている ・ 内陸部にもある ⑤ 考 なぜこのような場所に集まっているのか ・ 原料や製品の輸送に便利 ・ 高速道路を使った輸送に便利 ・ 大消費地に近い
	投影内容								
導入	・ 工業の種類								
展開	・ 白地図								
まとめ	・ 子どもの考え								

第6学年 総合的な学習 学習指導案

授業者 別所 英文

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 □一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ 書画カメラ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノートスクール ○ あつまと+つくつた ～情報活用を助けるWeb教材～
ICT 活用のポイント	○ 集めた情報をデジタルカードにすることで、グループでの取捨選択や整理、加工など、話し合い活動が活発に行えるようにする。 ○ 整理されたデジタルカードをそのままスライドに活用することで、よりわかりやすいプレゼンテーションが行えるようにする。

1 学年・組 第6学年1組 計32名

2 場 所 6年1組教室

3 単 元 名 めざせ 人がつながる町 阿倍野

4 目 標

- 町づくりに対する取り組みを調べたり、考えたりすることで、人のつながりの大切さに気づくことができる。
- 解決活動や探究活動を友だちと協力して取り組み、人と関わるよさを実感することができる。
- 複数の資料から目的に応じて情報を取捨選択し、活用することができる。
- 意図を明確にし、聞き手にとってわかりやすい情報発信をすることができる。

5 単元の評価規準

よりよく問題を解決する資質や能力【資】	学び方・考え方【学】	主体的、創造的、協同的に取り組む態度【態】	自己の生き方【自】
○ 学習活動に対する見通しをもち、解決の計画を立てることができる。	○ 問題を解決するために、必要な情報を集めたり、精選したりすることができる。 ○ 自分の考えを表現できる。	○ 課題意識・目的意識をもって、主体的に、粘り強く、解決活動や探究活動に取り組むことができる。 ○ 友だちと協力して、解決活動に取り組むことができる。	○ 町づくりについて調べ、まとめたことを、自分たちの生活に生かすことができる。 ○ 他の人の考え方を認めたり自分に取り入れようとしたりすることができる。

6 指導計画（全 18時間【国語12時間 総合的な学習の時間6時間】）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	・学年テーマ「みとめる つながる ひろめる 心の輪」を再確認し、地域の人とつながる町づくり提案するという学習の見通しを立てる。（総）	・プレゼンテーションの動画を活用し、提案の仕方をイメージさせる。
2	2 ～ 5	・「町の幸福論」を読み、本文の内容を読み取る。（国）	・デジタル教科書の写真や図、表やグラフを活用し、各地域の事例やバックカスティングをとらえやすくする。
	6	・学級全体で「人がつながる町」の未来像を福祉・環境・防災・防犯の観点から考え、グループ分けを行う。（国）	
3	7	・情報の集め方、整理の仕方、まとめ方、注意点について知る。（総）	・あつまるとつづつた ～情報活用を助けるWeb教材～から、調べ方やまとめ方のポイントをつかめるようにする。
	8 ～ 11	・個人で、本、資料、インターネットから情報を集める。（総）	・写真や図、グラフ、資料そのもの、文章の抜粋など、さまざまな情報をロイロノートスクールのカードにしておくことで、取捨選択しやすくする。
	12 （本時）	・グループで、集めた情報を取捨選択し、提案内容をまとめる。（総）	・グループで考えた未来像に沿って、ロイロノートスクール上の情報カードを必要なものと不必要なものに分けるようにする。
	13 ～ 15	・人とつながる町づくりについて、プレゼンテーションを行う準備をする。（国）	・同じ項目のカードをつなぎ、見出しをつけることで、まとめたことが一目でわかるようにする。 ・まとめたカードを発表用のスライドに活用する。
4	16 ～ 17	・プレゼンテーションを行い、意見交流をする。（国）	・必要に応じて拡大するなど、スライドの見せ方を工夫することで、聞き手に分かりやすく伝えることができるようにする。
	18	・活動を振り返る（国）	・区役所の方にも見てもらい、評価していただけるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 集めた情報を取捨選択し、テーマに沿った提案内容をまとめることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 学習課題をつかむ。			
	必要な情報をとりだし、提案内容を決めよう。 ○ 前時までに個人で収集した情報をグループでまとめることを確認する。	それぞれの情報がロイロノートスクール上に集められたものを提示することで、活動内容を想起させる。	電子黒板 iPad（指） ・ロイロノートスクール	
展 開	○ グループで、考えた未来像に沿った情報を集められた情報から取捨選択する。	- グループで考えた未来像に沿って、ロイロノートスクール上の情報カードを必要なものと不必要なものに分けるようにする。 - 不必要だと思う情報カードでも、必要になった時に使えるように、もう一台のiPadに残しておくようにする。	iPad（兎） ・ロイロノートスクール	【態】 ・友だちと協力して、活動に取り組んでいる。 （行動・態度） 【学】 ・問題を解決するために、必要な情報を集めたり、精選したりする。 （ロイロノートスクール）
	○ 選択した情報を観点ごとにまとめ、提案内容を決める。 ・他地域の事例 ・アンケートによる人の意見 ・インタビューによる人の話	- 同じ項目のカードをつなぎ、見出しをつけることで、まとめたことが一目でわかるようにする。 - 写真や図、グラフなど視覚的にわかりやすいものをいれるようにする。		
ま と め	○ 同じテーマのグループとまとめた情報について意見交流する。	まとめたカードを見せながら説明することで、自分たちのグループの提案を伝わりやすくする。	iPad（兎） ・ロイロノートスクール	【自】 ・友だちの考え方を認める。 （行動・態度）

(3) 板書計画

めざせ 人がつながる町 阿倍野

「めあて」 必要な情報を取り出し、提案内容を
決めよう。

○ポイント

- ・ 取捨選択：必要なカードと不必要なカードを話し合って分ける。
- ・ 不必要なカードはまとめてもう一台のアイパッドに。
- ・ 必要なカードは観点ごとにまとめて見出しをつける。

電子黒板

	投影内容
導入	・ 個々の情報が集められた状態のグループのタブレット画面の提示
展開	・ 必要に応じて、取捨選択している画面の提示 ・ まとめたカードへの見出しのつけ方の提示 ・ ワークシートの提示
まとめ	・ まとめたカードの提示

なかよし学級 生活単元 学習指導案

授業者 吉川達也 河野悦子 高木美由紀

《本日のICTの活用》

授業の場所	☐ 普通教室 ☒ 特別教室 ☐ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他（ ）
授業形態	☐ 講義形式 ☒ 一斉学習 ☒ グループ学習 ☐ 個別学習
ICT活用の場面	☒ 導入 ☒ 展開 ☒ まとめ
ICT活用者	☒ 指導者 ☒ 児童 ☐ その他（ ）
ICT活用の目的	☒ 資料の提示(指導者) ☒ 資料の提示(学習者) ☐ 自分の考えをまとめる ☐ グループの考えをまとめる ☐ 他者との考えの比較・交流 ☐ 学習内容を調べる ☒ 自分の考えを表現する ☒ 学習の振り返り ☒ 記録(写真・動画等) ☒ プレゼンテーション等の作成
活用機器	☒ 電子黒板 ☒ 指導者用タブレット端末(iPad) ☒ 児童用タブレット端末(iPad mini) ☐ その他（ ）
活用コンテンツ等	☐ Keynote ☐ 写真ファイル
ICT活用のポイント	☐ 映像があることにより、視覚的にわかりやすくする。 ☐ Keynoteの電子説明書をタブレット上で提示することで、班長がサポートしやすくする。 ☐ 活動している様子を撮影し、振り返ることで自分や友だちのがんばりを認め合いやすくする。

1 学年・組 なかよし学級 計13名

2 場 所 プレイルーム

3 単 元 名 がんばりを記録に残そう

4 目 標

- 友だちの話を聞くことによってこれからの学校生活に見通しを持って取り組むことができる。
- がんばったことやできるようになったことを友だちに伝えたり、聞いたりすることで、よいところを認め合い、協力して活動することができる。

5 指導計画(全8時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 2	・1、2学期にがんばってきたことをまとめ、12月にそれぞれの学級で発表することを伝える。 ・指導者のマイノート(頑張ったことをまとめたプレゼンテーション資料)を見る。 ・これまでにあった行事や心に残っていることを思い出す。 学習場面 自然体験学習 栽培・収穫活動 林間学習 運動会 修学旅行 全校遠足など ・伝えたいことを決めて写真を選ぶ。	・今までに撮影した写真や動画を電子黒板に提示したり、写真をタブレットで見たりすることで、思い出す手立てとする。 ・資料を提示することで本時の見通しを持つ。
2	3 (本時) 4 5	・Keynoteの使い方を知る。 ・頑張ったことやできるようになったことをKeynoteでまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。 ・発表の練習をする。	・Keynoteの使い方を知ることで、活動への意欲を高めることができる。 ・もう一度、個人的に今までに撮影した写真や動画をタブレットで見ることで発表することを決める手立てとする。 ・発表練習の様子を動画で撮影しておくことで自分の発表を確認する手立てとする。

3	6	・グループ内で伝え合う。(なかよしタイム)	・Keynote で作成した、頑張ったことやできるようになったことのプレゼンテーション資料を活用して伝え合うことにより、順序立てて話すことができる。聞く側も、視覚的にわかりやすくなる。
	7	・みんなの前で話をする。(なかよしタイム)	
	8	・それぞれの学級で発表する。	・練習時の動画を使用することで、本番緊張して話せない子どもの手助けとなる。

7 本時の学習

(1) 目 標

○ Keynote の使い方を知り、班で協力してプレゼンテーション資料を作成することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ はじめのあいさつをする。 ○ 前時の活動を振り返る。 ・指導者が作成中のマイノートを見る。 ○ 本時のめあてを確認する。	・前時の活動の様子を電子黒板に提示することで、振り返りやすくする。 ・資料を提示することで本時の見通しを持ちやすくする。	iPad (指) 電子黒板	・資料を見ながら振り返り、本時の活動への意欲を持つことができる。(行動観察)
がんばりをきろくにのこそう				
展 開	○ Keynote の使い方を説明する。 ○ マイノートを作る。 ・5、6年生の班長を中心に表紙を作成し、Keynote の基本操作を知る。 ・がんばったことのページを作る。 ○ インタラクティブリンクの方法を知る。	・各班に Keynote の電子説明書をタブレット上で提示することで、班長がサポートしやすくする。 ・電子黒板で指導者のプレゼンテーション資料を提示することで視覚的にわかりやすくする。	iPad (児) ・Keynote 電子黒板 iPad (指) ・Keynote	・Keynote を活用することができる。(行動観察) ・友だちと関わりながら取り組んでいる。(行動観察) ・班長は班のメンバーにわかりやすく説明できる。 ・班長の話を聞き、プレゼンテーション作成の見通しを持つことができる。(行動観察)
ま と め	○ 本時の学習を振り返る。 ・作成中のマイノートを見て自分たちの様子を振り返る ・自分や友だちのがんばったところを発表する。 ○ 終わりのあいさつをする。	・本時の子どもたちの様子を撮影し、その写真を電子黒板に映し出す。それによって、自分や友だちのがんばりを認め合うことができ、次の活動への意欲を持つことができるようにする。	iPad (指) 電子黒板 ・写真ファイル	・自分や友だちのがんばったところを発表したり、他の友だちの発表に興味を持って聞いたりしている。(行動観察)

(3) 板書計画

電子黒板

	投影内容
導入	・前時の活動の様子 ・指導者のマイノート
展開	・Keynote 電子説明書 ・インタラクティブ リンクについて
まとめ	・ふりかえり

がんばりをきろくにのこそう

・マイノートをつくろう

つかいかた

もじ
しゃしん
ずけい

マイノートのつくりかた

ひょうし
がんばったこと

インタラクティブリンク

よかったところ

[illegible]

[illegible]